



誇れる街、中区

市議員

いなみ俊之助 としのすけ



発行：自民党横浜市会議員団

編集：いなみ俊之助事務所 横浜市中区上野町2-67 TEL：045-625-1200
<http://www.inami-yokohama.com> info@inami-yokohama.com


一般質問に初挑戦！！


50分という長い質問時間をいただき、緊張で汗びっしょりでしたが、日頃の熱い思いを市長にぶつけました。

19項目 48問のうちほんの一部ですが、皆様にお届けいたします。翌日、市長の答弁と共に神奈川新聞に掲載されました。





関内・関外地区の活性化に向けた具体的な取組【都市整備局】

 関内・関外地区の最近の動きとして、いよいよ今年には新市庁舎が着工いたします。北仲通周辺のまちづくりが進む一方で、市庁舎移転後の関内駅周辺のまちづくりも強力に進めなければなりません。関内駅周辺では、文化体育館再整備に向けた公募手続きが進められ、4月には関内駅北口の改札がリニューアルされました。また、横浜スタジアムについては、改修に関連する議案が上程され、議案関連質疑でも取り上げられていますが、改修に向けた手続きが始まるなど、いよいよ目に見える取組が進んできました。また、現市庁舎や教育文化センター跡地活用などについても、今年3月に「現市庁舎街区等活用事業実施方針」が示されたところであり、これから正念場を迎えるものと考えています。そこで、まず現市庁舎街区等の跡地活用を今後どのように進めていくのか伺います。

 リーディングプロジェクトである教育文化センター跡地は、本年秋頃を目途に事業者公募を開始いたしまして、年度内に事業予定者を決定したいと考えています。また、現市庁舎街区については、30年度に事業者公募を行う予定です。市庁舎移転を契機として新たな魅力ある拠

点の形成によりまして、関内・関外地区の一層の活性化に向けて取り組んでまいります。

 関内・関外地区の活性化にあたっては、官民連携して取り組むことで、より一層効果が表れるものと考えており、そのためにも地域の方々の熱意が途切れないよう、具体的な取組が進んでいることを知ってもらうことも、とても大切だと思います。特にこれまでも大岡川における棧橋を起点とした河川の利活用が進んでおり、また、中村川においては周辺のみならず河川の清掃を行いたいという希望が出るなど、市民活動の機運が高まってきています。昨年から開催している「春爛漫・横浜クルーズ」は市民にも親しみやすい取組で、今年度は昨年度を大きく上回り、約8,000人の利用があったと聞いています。そこで関内・関外地区の活性化に向けて河川の利活用にもどのように取り組んでいくのか伺います。

 「春爛漫・横浜クルーズ」や秋に大岡川から中村川にかけて様々な船が参加する「横浜運河パレード」などに加えまして、今年度は新たに現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2017」と連携いたしまして、大岡川周辺でアートを楽しめる取組を検討しております。引き続き、情報発信の工夫や河川を利活用しやすい環境づくりなど、更なる賑わいの創出に向けた取組を拡大してまいります。



大岡川、中村川などにおける水上バイクの運転マナーなどが問題となっており、関係機関と連携しながら安全に河川の利活用が行われるよう、スピード感を持って取り組んでいただくことを要望します。関内・関外地区では、この他、今年は吉田新田の埋め立てが行われてから350年が経過する節目の年でもあり、地域では様々なイベントが企画されています。このように、官民挙げて、今からできることを着実に進めていくことで、大規模なプロジェクトの効果も高めることができるものと思います。そこで官民連携による関内・関外地区活性化に向けて、市長の決意を伺います。



これまで地元の皆様と活発な議論を行い、様々なイベントや河川利活用、歴史の魅力発信など地区活性化に向けた取組が行われています。横浜スタジアムの改修や市庁舎移転等の事業も進んでいきますので、地元の皆様の取組とお互いに相乗効果を生んで、本市の更なる発展・成長につながるよう、引き続き、官民で連携しながら全力で取り組んでいく決意でございます。

いなみのおもい

歴史ある横浜の顔といえる関内・関外地区の今後については、2020年という節目の年に向け、地域の関心もますます高まっていくものと思います。また、関内・関外地区の活性化は、関内以南、磯子、新杉田、港南台、本郷台などのJR京浜東北線沿線の活性化にも繋がるものと考えます。一つ一つの取組が本市の南部地域にも大きな成果となって現れるよう、当局の一層の取組に期待します。

寄り添い型市政を実現するための 職員の育成【総務局】



8年後の2025年には、市内の高齢者人口が約100万人となり、市民の4人に1人以上が高齢者になると言われております。平成28年度の市民意識調査結果を見ると市民の皆さんの横浜市への定住志向は強く、年齢が上がるほど、その割合が高くなっています。「高齢になっても、横浜に住み続けたい」そんな市民の皆さんの声に応えるためには、高齢者に配慮した政策を進めることが必要です。そして、その政策を進める市の職員には、高齢者への配慮をはじめとした福祉の視点が求められると思います。私は数年前、ヘルパー2級の資格を取りました。資格取得を通して、非常に多くの気づきを得ることができました。この研修は、現在では「介護職員初任者研修」に代わっております。本市の新採用職員研修において、その中の1日で従来から福祉活動実習が行われていますが、私は、市の職員、特に思考が柔軟な新採用職

員がこの「介護職員初任者研修」を受けることで、福祉の視点を養うべきだとも考えております。職員が、こうした資格を取得するなどして、福祉の視点を持つことで、より説得力のある福祉施策はもとより、各区局にそうした職員が配属されることでより良い市政運営につながります。そうした職員が配属されるそしてよりよい街づくりにつながります。先ほども触れましたが、障害のある方や高齢者に優しい街づくりは子どもや子育て世代にも優しい街になります。せめて健康福祉局や区に配属になった職員はこうした資格を取得すべきかと思っております。これまで以上に福祉の視点を持ち、より一層職員の意識を高めていただき、ぜひ「お年寄りにやさしい街、横浜」を目指してほしいと考えています。そこで「福祉の視点」を持った職員の育成について、市長の見解を伺います。



本市では、新採用職員研修のカリキュラムに市内の福祉施設での実習に加え、今年度から認知症サポーター養成講座の講義を取り入れるなど、積極的に取り組んでいます。職員が福祉の視点を活かして業務にあたることは非常に重要なことだと考えていますので、今後も様々な機会をとらえて職員の育成を図り、市民の皆様にも寄り添う行政サービスと提供してまいります。

いなみのおもい

林市長が掲げる「市民に寄り添う」行政サービスが、心の通ったものとなるよう強く要望します。

小学校体育大会の充実 【教育委員会事務局・環境創造局】



横浜には全世界に誇る日産スタジアムがあり、ここでは、はまっ子スポーツウェーブの大会の一つとして、小学6年生が全員参加する小学校体育大会が開催されています。過去にはサッカーワールドカップの、また2019年にはラグビーワールドカップの決勝戦を行うこのスタジアムで、このような大会を開催できることは本当に素



晴らしいことと考えています。一方、この大会では学校代表である旗手のみが開会式で芝の中に入っていますが、他の多くの子どもたちは入ることはできません。大人の都合で子供たちの夢と希望と感動の未来を摘んではなりません。芝の養生も大切だと思いますが、大人の都合でもあり、教育上の配慮として、芝に触れ合える機会やトラックを走る感触を味わう機会などが持てるよう、工夫ができないものかと考えています。子どもたち一人ひとりが世界基準の芝に触れ、トラックを走れることで、感動が生まれ、新たな目標を育むチャンスともなると思います。そこで、小学校体育大会が子どもたちにとって、より夢や希望、感動を感じられる本物体験の場となるよう充実してほしいと考えますが、市長の見解を伺います。



この大会は今年度で第67回を迎える伝統的な大会です。すべての小学校6年生が日本代表チームや世界的に有名な選手が活躍する舞台となっている日産スタジアムにおいて、演技や競技を行い、本物を体験できる貴重な機会となっております。今後も国際総合競技場はネーミングライツで日産スタジアムと言っておりますが、この特色でもある本物の芝に直接触れ合い、学校の授業では体験できないような内容とするなど、プログラムを工夫して本物体験の充実に取り組んでまいります。

いなみのおもい

未来を担う子どもたちに、横浜を故郷と感じられるような、思い出を作ってもらえることを要望します。

消防体制の強化【消防局】



大規模な地震や風水害などの自然災害とともに、市民生活に影響を及ぼすような都市災害等においてもしっかり対応できる体制が必要となります。私は人命救助は消防が大きな役割を担っていると考えています。直接人命にかかる消防こそが対応力を強化すべきと考えます。そこで、安全で安心できる横浜の実現に向け、消防力の強化が必要不可欠と考えますが、市長の考えを伺います。



昨今の異常気象による局地的な豪雨をはじめ、大規模地震、テロ災害など、市民生活への脅威が増す中、市民の皆様のご生命・身体・財産を守ることは、基礎自治体が果たすべき最も重要な責務のひとつです。そのため、消防局における施設、人員の充実はもとより、地域に密着した消防団の強化、さらには、広域災害に備えた関係機関との一層の連携を図るなど、消防力の着実な強化に取り組んでいきます。



高齢化の進展が一層顕著になり、救急車の出場件数も増加の一途を辿り、昨年は約18万7千件と8年連続で過去最多を記録しています。少子化が進む一方で、新生児や乳幼児の救急要請も増加しており、横浜の未来を担う子どもたちに対する安全対策も一層の推進が求められます。こうした社会情勢を考えれば更なる救急出場件数の増加が見込まれます。そこで、今後の救急体制の更なる強化について市長の考えを伺います。



救急車の整備については、本市消防力の整備指針で定める77台を目標に計画的かつ重点的に取り組み、29年度末で73台となり、残り4台を早期に整備します。また、救急車の増隊効果や高齢化の進展をはじめ、昨年運用を開始した横浜市救急相談センターの利用実績と救急要請との関係などを基に将来の救急需要予測をより詳細に調査し、救急体制の充実強化に取り組んでいきます。

いなみのおもい

今後、発生が危惧される大規模地震や国際的なイベントの安全な開催、また、将来を見据えた救急への適切な対応など、これらにしっかりと対応できる体制づくりの実現が、皆が、横浜に住んでみたい、横浜に行ってみたい、という思いを引き出す鍵になり、ひいては横浜の発展に寄与するものと私は確信しています。また、消防という重要な組織を担う職員のモチベーションを維持していくことも、組織の充実には不可欠な要素となります。私は昨年、新採用の職員が教育を受けている、消防訓練センターを視察させていただきました。災害に立ち向かい市民を守りたい、という熱いところざしが教育を受けている職員の皆さんから伝わってきたことが今でも記憶に残っています。必要な車両・資機材の充実はもちろん、採用時の尊い初心の思いを持ち続けて市民の安全安心の確保のため活躍できる人材の育成が重要です。このように市民の命を守る最後の砦となる消防をハード、ソフトの両面から充実強化に努めていただくことを要望します。

横浜の鉄道ネットワーク 【都市整備局・交通局】



市民生活の質の向上や企業活動の活性化など、将来の横浜が発展し続けていくうえで、鉄道ネットワークの充実が極めて重要な社会資本整備です。人口減少・少子高齢化の時代にあっても、必要な投資である鉄道ネットワークの整備に果敢に取り組んでいくことが重要です。そのような意味では、私は、現在整備が進められている神奈川東部方面線を予定通りに完成させることが非常

に重要と考えており、市として工程管理にもしっかりと関与しながら進めていただきたいと思います。また、高速鉄道3号線延伸については、これまで都市整備局が中心となって事業化の検討を進めてきましたが、今年度から、交通局が事業候補者として調査を実施していくこととなり、両局の連携のもと、いよいよ検討が本格化してきたと実感しています。しっかりと事業化に向けた道筋をつけて、市民の皆様の長年の期待に応えていただきたいと思います。そこで、高速鉄道3号線延伸について、検討状況と今後の方向性を伺います。



横浜と川崎の両市にまたがる路線であるため、本年4月に両市の副市長レベルで協議を進めていくことをあらためて確認いたしました。現在、実務担当者間で事業化の判断に必要な調査の実施内容や検討スケジュールなどについて川崎市と調整をしています。市民の皆様からの期待も大きく、両市の発展にとって重要な路線ですので、実現できるよう取組を進めていきます。



一方、横浜環状鉄道の検討に関しては、現時点では、具体化の道筋が見えていません。私の地元である本牧地区ではみなとみらい線の延伸が長年の悲願となっています。本市として国の審議会に対し、環状鉄道の位置づけを要望してきた経緯もあるため、今後の市の取組には大いに期待しているところです。そこで、横浜環状鉄

道のうち、元町・中華街から根岸までの区間について、必要性をどのように認識しているか伺います。



横浜環状鉄道は、主要な生活拠点を結ぶことで、市域の一体性や交通利便性が一層向上するなど、市民生活を支えるための重要な路線であり、御指摘の区間は、本牧地区の活性化にもつながると考えております。この路線は、長期的に取り組む路線としておりますので、他の路線の進捗状況を見ながら、整備効果や事業性を高める方策を検討していきます。

いなみのおもい

地下鉄の整備と本牧のまちづくりを一緒に進めていく計画となっていた過去の経緯を踏まえて、この路線を待ち望む市民の皆様が、「着実に前に進んでいる」ということが実感できるよう、取組を進めていただくことを要望します。



翌 5/27、答弁内容の一部が 神奈川新聞に掲載されました

終了後も大花壇残す
緑化フェア市長「秋に再公開」
 緑化フェア市長「秋に再公開」という。約1万の大花壇が、開催中の「第33回全国都市緑化フェア」の里山ガーデン会場（同市）の里山ガーデン会場（同市）の大花壇について、今年秋に再び公開する。と述べて、6月4日の同フェア終了後も残す考えを示した。同日開かれた市議会本会議で伊藤俊之助氏（議員）の質問に答えた。里山ガーデンは、よこはま動物園へ入館前に開催し、5月7日までに約20万人（観覧者）が訪れている。市環境創造局によります。再公開の時期は未定で、フェア終了後に植物の種類や配色などの設計作業を進める。（松村 祐介）

2017.5.27 神奈川新聞

いなみ俊之助プロフィール

<経歴>

ルンビニ幼稚園 卒園	平成 6年 神糧物産株式会社
横浜市立本牧南小学校 入学	平成 7年 自民党衆議院神奈川第2選挙区支部長
横浜市立間門小学校 卒業	菅義偉秘書 公設第2秘書 総務大臣秘書官
横浜市立大島中学校 卒業	平成21年 管事務所 卒業
私立逗子開成高等学校 卒業	平成22年 横浜市議員 伊波洋之助事務所
奈良産業大学法学部 卒業	平成27年 横浜市議員（中区）初当選

<活動>

認定NPO法人日本釣り環境保全連盟 副代表理事
 日本・ルーマニア協会 理事
 社会福祉法人 山手まごころの会 理事
 中区ソフトボール協会 会長
 横浜市青少年指導員（中区）
 横浜市立間門小学校同窓会理事
 本牧和田祭礼委員

<資格>

ヘルパー2級

<家族>

妻・長女（17歳）・長男（3歳）

<趣味>

釣り・ソフトボール・キャンプ

<アルコール>

全くダメ

平成 29年 5月現在

いなみ俊之助

検索